

生者イケルヒト遂毛ツクモ死物シヌルモノ爾有者ニアラバ今生在間者イマナルマハ樂乎レタラシク有名ナラシキ

〔萬葉集十六〕有由有緣緣井井雜雜歌歌厭世間無常歌二首

生死イキシニ之ノ二海フタツノウミ乎ヒト厭見イトヒミテ潮干シホヒ乃山乎ノヤマヲ之努シヌ比鶴鳴ヒツルカモ略略○中

右歌二首、河原寺之佛堂裏在倭琴面之、

〔躬恒集〕雜の歌

ことさらにしなんことこそかたからめいきてかひなく物思ふ身は

〔拾遺和歌集十一〕題しらす

大伴百世

戀しなむ後はなにせんいける日のためこそ人は見まくほしけれ

〔方丈記〕すむ人も是におなじところもかはらず人もおほかれどいにしへみし人は二三十人が

中にわづかにひとりふたり也あしたに死し夕にむまる、ならひたゞ水の泡ににたりけるし

らすむまれしぬる人何方よりきたりていづくへか去略○下

〔徒然草上〕又云、されば人死をにくまば生を愛すべし存命のよろこび日々たのしまざらんや、

おろかなる人此樂をわすれていたづかはしく外のたのしびをもとめ此財をわすれてあやう

く他の財をむさぼるには志みつことなしいける間生をたのしみますして死に臨て死を恐は此

ことはりあるべからず人皆生をたのしまざるは死をおそれざるゆへなり死をおそれざるに

はあらず死の近きことをわする、なりもし又生死の相にあづからずといはゞ實のことはり

をえたりといふべしといふに、人いよく嘲る、

〔書言字考節用集八〕言辭ハシ半死ハシ半生ハシ文集朱子

〔太平記七〕千劔破城軍事

正成所存ノ如ク敵ヲタバカリ寄セテ大石ヲ四五十一度ニハツト發ス一所ニ集リタル敵三百